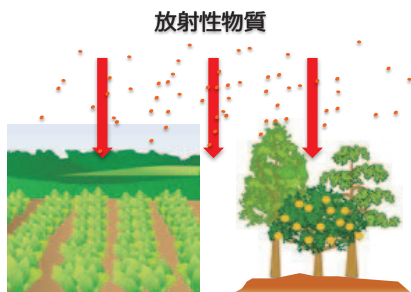


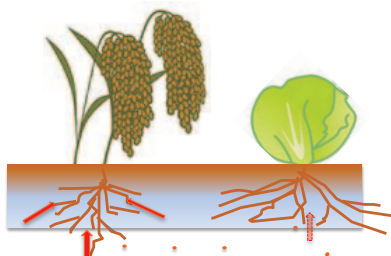
食品中の  
放射性物質対策

## 農産物の汚染経路

■ 降下した放射性物質  
による直接汚染

事故直後

事故直後に樹木に付着した放射線物質が果実や新芽に転流

■ 農地に降下した放射性物質  
の根からの吸収

事故後の作付け等

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成

農林水産省

農産物の汚染経路は大きく3つに分けられます。

- ① 左端の図は、降下した放射性物質が直接付着する経路です。東京電力福島第一原子力発電所事故発生時に生育中であった葉物野菜等で放射性セシウム濃度の高い値が見られましたが、これが主要な汚染経路であったと考えられます。
- ② 右端の図は、農地に降下した放射性物質が根から吸収される経路です。事故後に作付けされたものについては、この経路が主要であると考えられます。
- ③ さらに、中央の図は、事故直後に果樹やお茶の樹体に付着した放射性物質が樹体内に浸透し、果実や茶の新芽に転流<sup>\*</sup>する経路です。

現在の各品目の主な汚染経路は、②又は③であり、各品目の汚染のメカニズムに合わせて低減対策が行われています。

※：転流とは、植物体内で、吸収した栄養素や光合成でできた栄養やその代謝産物がある組織から他の組織へと運搬されることをいいます。

(関連ページ：上巻 P154、「植物への移行」)

本資料への収録日：平成 25 年 3 月 31 日

改訂日：平成 28 年 1 月 18 日